

ベイトウンニュース記事の検証

ベイトウンニュースでは「考える会」と連動した記事が掲載されているが、内容について事実ではないものが多数見られる。これを検証してみる。

検証対象（関連記事が掲載されていた号）

ベイトウンニュース 2015年3月1日号
ベイトウンニュース 2015年4月1日号
ベイトウンニュース 2015年5月1日号
ベイトウンニュース 2015年6月1日号
ベイトウンニュース 2015年9月1日号
ベイトウンニュース 2015年10月1日号

↑元記事へのリンクを貼ってあります。

千葉市が打瀬公民館の運営について説明会コアの新しい使い方を一緒に考えましょう。(2015/3/1)

千葉市はベイトウン・コア（打瀬公民館）の運営方法を直すため、地域の特色を活かした使い方を住民と一っしょに考える会を開きます①。現在、コアは公民館のルールの中で運用されていますが、素晴らしい音響と日本に数台しかないコンサートグランドピアノを備えたホールを持つなど、施設としても優れたものをもつコアを従来の公民館の枠で画一的に管理するよりも、住民の意見を入れた新しい管理をした方が地域の特色を活かした文化施設にすることができると考えた②からです。

ベイトウン・コアは計画時から住民と企業庁、千葉市の3者が同じテーブルで考え、住民の意見が取り入れられた画期的な文化施設として誕生しました。しかし他の施設にはない音楽ホールを備えるなどハードウェア面では住民の意見が多く活かされましたが、計画時に住民が希望した自主的な運営については見送られました。コアが公民館という従来の施設の枠内で管理されることになった理由です。当時のベイトウンのコミュニティの成熟度ではまだ長期にわたって継続的にこの施設を運用することに不安があったからと考えられます。

しかし街開きから 20 年。当時と比べてベイトウンも大人になりました。この地域な将来この施設を自主的に運営することを任せても大丈夫ではないか、そのための話し合いを今から始め、できる部分から自主運営をという環境が整ってきたのです③。

もちろん自分たちでコアを運営するには住民の側にも責任が発生し、手放して喜べるものではありません。しかしコアは今コアを使っている人だけでなく、これから多くの世代が使い続けるベイトウンの文化施設です。将来ここで暮らすすべての人が使いやすく誇れるような施設にしていくためのきっかけを作るのは、今ここにいる我々の世代の役割です。ぜひ多くの人の参加をお待ちします。

①市の説明会は、住民と一緒に考えるのではなく、マニフェストに基づきどの公民館でも当てはめられるよう用意した汎用的な「住民参画」案を地域に説明し、導入可能かどうか検討してもらうことが目的である。(資料 1)

②市の案はあくまで千葉市公民館汎用の仕組みを作ることを目的としている。利用者減少への対応に地域住民を活用し、主事業務を委託するものでしかない。公表前の住民との数度にわたる協議の間も、打瀬特有の事情は考慮されなかった。市では予算配分もコアを活かすどころか、ホールの維持すら難しい一般公民館予算しか請求してこなかった。この点を他の記事では明確にしているのにもかかわらずこの記事では印象操作のために千葉市が打瀬の特殊事情を活かすための提案をしていると持ち上げている。

提案が目指す地域の問題の解決とは、通常地域のコミュニティの問題（たとえば、子育て世代が孤立している、独居老人が多い、放課後行き場のない子どもが多いなど）を指す。住民が公民館の内部に入ることによって公民館一般の運営の問題の改善が図られることも期待されている。打瀬特有のホール維持・設備管理問題を解決することは考慮されていない(資料 2)

③市の提案は市長の二期マニフェストに基づくもので、打瀬の事情を汲むためになされたものではない。打瀬は当初地域管理検討の対象とはされておらず、打瀬在住の湯浅元市議会議員から市長へ提案があり、市長サイドから所轄課が促されて協議対象になった。

市の提案の目的は資料 2 に見られるように、市だけでは解決しがたい千葉市公民館全体の利用者減少問題の問題解決にある。

資料 1 生涯学習振興課の回答(2015/3/27)

市が開催した意図としましては、これまで協議を行ってきた内容について、地域で広く共有し、協議を深めていただくためにご説明させていただいたものです。その

ため、これまでの協議を踏まえた主事相当で参画いただく枠組み等の概要を、改めてご説明をいたしました。

資料 2 生涯学習振興課の回答(2015/3/27)

地域の皆様に運営にご参画いただく目的は、上記のとおり、講座を中心に施設利用なども含め、関わっていただくことにより、皆様の視点で、改善すべき点が発見されることなどにあるとご説明させていただきました。なお、運営を改善する際は、47館全体の制度の見直しとなるため、時間がかかることもあることにご理解いただきたい旨も補足させていただきました。

「住民の手でコアを運営したい」考える会が発足(2015/4/1)

前月のニュースでお知らせしたように、千葉市は3月15日(日)にコア・ホールで「公民館の運営に住民が参画することについての説明会」を開きました。事前の広報が十分ではなかったにもかかわらず約30人①の住民が集まり、この問題への関心の高さが感じられました。説明会の冒頭、千葉市は現在千葉市内の公民館の利用者数が減っていること、その打開策として従来の公民館の枠組みを超えた取り組みを考えたいとし、市内でも利用率の高いベイトウンで公民館の運営に住民に参加してもらいたいと投げかけを行いました。具体的には、これまで公民館講座として千葉市職員が行っていた講座の企画を住民が行うことなどを案として示しています②。

これに対し参加した住民からは、公民館講座を住民が企画運営するだけでは抜本的な解決にはならない。ベイトウン・コアでは利用者の大半はホールでのイベントに集まっており、公民館講座だけでなく、ホールの運営も住民が自主的に行えるような公民館全体の運営への参加を望む意見が出されました③。

千葉市もこれらの意見には概ね賛成しており、今後住民が作る検討委員会と千葉市が定期的に協議を行うことになりました。

これを受けて説明会終了後に住民で意見交換が行われました④。参加者からは今後のホールの管理について公民館の講堂という位置づけでは施設と設備を将来にわたって維持するには不安があり、この点に住民が関わることができる仕組みをこれを機会に作りたいたいとの意見が出されました。

また公民館講座の企画について、現在サークル活動として行っているイベントのいくつかは公民館講座と内容的にも重複しており、これを活用することで講座の企画は住民が行える。

将来的には市民大学講座のようなものに発展する可能性もあり、講座の企画はやってみたいという意見も出されていました⑤。

⑤。今後はコアの運営を住民が行うことについてできるだけ多くの住民が参加して話し合うこととなります。次の話し合いは4月12日(日)、ベイトウン・コア講習室で午後1:00から開かれます。コアの運営をどうするかは、現在コアを利用している人達だけでなく、将来コアを使うことになる子どもたちも含めた住民全体にとって大きな問題です。ベイトウンの魅力ある文化施設としてコアをどう活用するか。多くの方の参加をお願いします。

① 実際はもっと少なく、20名前後。しかも公民館の運営に関心がある者が集まったわけではなく、呼びかけ人自身が「コアはあと10年保たない」と煽ってサークル代表者等を動員した。また、この日会議を行うことはベイトウン住民には公表されておらず、市の提案自体2016年3月時点でも広報されていない。

② 公民館講座企画運営だけではなく、フルタイム勤務の主事業務相当を委託すること、その委託費は講座運営費用を含め200~300万円であること等を明らかにしているが触れようとしない。その他は[市の提案資料](#)参照のこと。

③ 指定管理者制度に基づく全体運営を望む「協議会」メンバーの一方、公民館利用者からは否定的な意見が出ていた。千葉市生涯学習振興課は住民の反応に好意的であるかのように書かれているが、当日立ち会い職員にヒアリングした湯浅元市議会議員によれば、主事を引き上げ住民が勤務させることへの否定的な反応(主事を引き上げるのか、公民館運営懇談会を強化すればよいのではないか)に課側は「参画を望まないのか」と戸惑っていたとのこと。

④ 市の提案説明会でありながら、設備維持問題で動員がかけられており、説明会後に会議を行うことは一般住民には知らされていない。また提案も広報されていない。それにもかかわらず、この場のメンバーだけで「公民館の運営を考える会」を立ち上げ市と交渉する住民代表組織であることを宣言。この会では今後市の提案とは異なる内容について市との交渉を行うとしている(資料3)。市の提案について質したところ、呼びかけ人は市の提案の検討は行わないとしていた。つまり、一般住民の知らないところで呼びかけ人中心に住民代表組織を立ち上げ、一般住民が内容を知らされることもないうちに市の提案をボツにする決定をしたことになる。

⑤ 記事を執筆した「考える会」呼びかけ人はH26年度に講座企画運営が提案された時から「市民大学講座運営」を希望し続け、なぜかコ

コア開館当時にあった自主的な講座運営ではなく公民館講座として行うことを求めている。

※筆者は当日立ち会っておらず、記事内容が説明会当日のものと合致しているかどうかは検証できていない。

【資料3】「公民館の運営を考える会」呼びかけ人松村氏から同会メンバーリスト及び公民館利用関係者へ宛てられたメール。

松村です

本日はご苦勞様でした。

このメールは本日千葉市が行った「公民館運営における地域参画に関する説明会」をうけて、今後どのように取り組むかを住民間で話し合った際の内容をメモにしたものです。

今後の議論をオープンにするため、これまでこの問題に関わってきた方、本日出席できなかったが今後の話し合いには興味を持っている方にメンバーリストにして送付しています。

打瀬公民館運営に住民が参画することについて考える会議事録メモ

日時：3月15日午後4：20～5：00

場所：コア ホール

このメモは3/15、午後2：00よりコア・ホールで行われた千葉市主催による「公民館運営における地域参画に関する説明会」の終了したあと、今後の対応を住民間で話し合った際の会議メモです。

この会議の前に千葉市が行った説明会は、公民館運営に住民が参画することについて議論をオープンにするために行われたものです。今回公民館の運営を住民が行う事が公になったので、今後住民が自由に議論し千葉市と公式に協議することが可能となりました(注1)。

今後コアの運営を住民が自分たちで行い、将来世代が「私たちのコア」という気持ちで使い続けられるよう、街の文化施設として誇れるしくみをつくるようみなさんで力を合わせましょう。

議事録といっても何から書き出せばいいのかわかりませんが、とりあえず本日の会で確認された事項を整理します。

この会は今後千葉市と住民代表が話し合っていくために、住民の意見を集約するために作った住民有志の会です。

会は参画の範囲や方法などについて住民の意見を主導的にまとめる作業部会とします。

千葉市との協議はベイトウン運営協議会を窓口として行いますが、この会の決定事項が実質的に住民の意思を代表するものになります。

会は常に情報を全住民に前広に公開し、今後の会も常にオープンに行うことを基本理念として運営します(注2)。第1次コア研で使われた「この指とまれ」を合い言葉に幅広い住民の参加を目指しましょう。

今後話し合うべきこと

公民館主催事業（公民館講座）を住民が企画・運営するための体制をどうするか。

具体的には現在行われている不特定多数が参加できる公民館サークル主催のイベント（寺子屋工作ランド、ファツイオリの会、わくわくお話し会など）を基礎に公民館講座を組み立てることになります。将来的にはアカデミックな内容の講座も企画し、「市民大学講座」のようなものまで企画できればと思います。

コア・ホールの設備を将来世代にまで引き継ぐため、機器の保全の費用をどう捻出するか。

現在ホールを中心として公民館の機器・機材の状態が非常に悪化しています。従来は住民がコンサートなどの収益を千葉市に寄付し、千葉市に管理してもらうことを希望して千葉市と話し合ってきましたが、今後は住民が施設機器の保全を行う自主財源を作る方法を考えることとなります。

ホールを使ったコンサートなどのイベントを住民が行いやすくするための枠組みをどうするか。

現在ホールでのイベントは館長への要望として提出し、承認を得てスケジュールをサークル間で調整するなどして行ってきました。規制事項も多く、住民主導でイベントを行うには非常に使いづらいしくみでしたが、これを住民が使いやすく自主的なイベントができる体制を考えます。

次回の話し合いについて

次回会合を4月12日（日）午後1：00～3：00の予定でコア講習室で行います。

今後月に1回程度のペースで話し合いをもつこととなりますが、話し合いの回数も非常に重要です。定期的に頻繁に活発に議論し、積み上げることが会の正統性を高めることとなります。

以上本日の会で話し合わせ、合意された内容を列記しました。議事録と呼べるものかどうか不安ですが、みなさんで気付いたことを書き加えて分かりやすいものにしてください。遠慮は無用、意見はどんどん出してください。

注1 市が住民側の議論を解禁したかのように書かれているが、市の説明会はあくまで市の提案を地域で検討・協議することを求めたもの。説明会以前は市の提案が固まっていなかったために提案の公表を止められていたが、住民が公民館運営参画について議論を行うことに制限はなかった。ましてや市の提案と関係のないことを議論するのであれば何の制約もあろうはずがない。また、住民が公民館の運営をすることが決定しているかのように書かれているが、市は提案の検討を求めたに過ぎない。提案が受け入れられなければマニフェストに基づいたこの件は終了する。市が新たな提案をしてくるかどうかは不明で、住民との協議に応じるかどうかは全く分からない。

注2 この会議自体が事前予告なく行われている(予告されたのはあくまで市の説明会)。議事録の公表は行われておらず、市の提案内容も部分的にしか広報されていない。広報手段のベイトウンニュースの記事も事実とは異なる内容になっていて、およそオープンとは言いがたい。

このままではコアは10年持たない

「コアの運営を考える会」(仮称)が第1回ミーティング(2015/5/1)

今回のミーティングは本来は3月に千葉市が住民に向けて提案したことに対する対応を考える場として開かれました。千葉市からの提案の内容は、「公民館講座の企画・運営に住民が参画して、公民館を魅力ある施設にして欲しい」というものです。しかし、集まった人の多くは千葉市からの公民館講座運営の話よりも「コアがこのままでは10年持たないというショッキングな事態①に住民として何が出来るかを話し合いたいと集まった人がほとんど②」で、当然会議ではそのことが最初から話し合われました。集まった方々は若い方から年配の方まで性別や年代も様々です。コアを毎週のように使うヘビーなユーザーから、日頃はコアに入ることはほとんどないけれど街にとっては大きな問題だからと参加した方までいろいろです。会議では「コアが『公民館』として運営される限り維持は難しい」という意見が多くだされました。そもそもコアが完成して千葉市が施設を企業庁から受け取った際に「公民館」として受け取ったことが問題の発端だという意見です。例えばコアのホールは公民館に普通にある「講堂」として運営され、ホールの舞台照明用電球が切れても通常の公民館の予算では補充もできません。公民館の講堂に舞台照明用のライトの予算はないからです。つまりベイタウン・コアは公民館の予算では維持できないのです。会議の冒頭では受け取っておきながら維持のための予算を出さない千葉市を批判する意見が多く出されていましたが、話し合いを進めるうちに、それなら住民が自分たちで不足分を補う方法を考えればいい。そのために今回の千葉市との話し合いをむしろいいチャンスとして利用すべきだという声が出てきました。③千葉市を悪者にして責めることにエネルギーを費やすより、むしろそのことを逆に住民が運営しやすくように少しずつでも権利を拡げていこうという考えです。例えばコアで魅力的なコンサートを行って収益を得たり、公民館講座の講師を住民がボランティアで行うことで浮いたお金ですらホールなどの維持管理の費用を出したりする④ことは豊富な人材が住むベイタウンだからこそできる方法です。ただそのためには細かい条件の調整やどんな組織で行うかなどを決める仕組み作りの作業が必要です。さらに、会で決めたコア運営のルールが街のみなさんやコアを利用する人に受け入れられるためには、会議にできるだけ多くの人に参加してもらい、自分たちでルールをつくるという気の長い取り組みが必要です。今回は会の目的がこの辺りにあることを確認して第1回目の話し合いを終わりました。今回の話し合いでは原則論に話し合いが集中したこともあり、次回は少しみんなで手を動かして作業をすることになりました。テーマは、現在コアで行われているサークル活動のなかで公民館講座として提案できるものはないか。具体的なサークル活動を出して検討してみます。「こんな公民館講座があったらいいな」というアイデアのある方。是非ご参加下さい。

① 10年もたないというのは根拠のない煽り。松村氏自身がサークル等へで声をかけて危機感を煽ることで参加を呼びかけていた。なお、中核館も含めて公民館職員はこれまで必要な予算請求をしようとせず、配分された一般公民館向け予算内で収めることだけを考えてきた。しかし、一部のホールに詳しい住民らから安全点検すらされていない管理の現状の指摘を受け、さらに昇降舞台の破損事故がその中で起きたため所轄課はこれまでの無管理状態を反省し、施設の維持管理に責任を持つことを明言し、市長も柔軟な予算対応を所轄課に指示している。2014年末の昇降舞台破損事故でも速やかな対応を行い、復旧させている。

② 記事を執筆している松村氏がサークル関係者を中心に将来維持管理ができなくなると煽って動員した。

③ 呼びかけ人や協議会のメンバーの一部がそうした方向へ議論を誘導した様子がある。はじめて事情を知った者たちは置き去りになっている。

④ 記事を執筆しており「考える会」呼びかけ人でもある松村氏の個人的意見で、考える会発足当初からあたかも既定路線のように繰り返し扱っているが、正式に会議に提案され議論されておらず、各サークルから了承されているわけでもない。松村氏自身がボランティアで講師をするのならよいが、実際には他のサークル等にボランティアを求めるものであり了解されなければ実効性はない。それにもかかわらず「考える会」で松村氏は「公民館講座」に適するサークル活動のピックアップ作業を指示している。

住民の手でコアを運営したい(2015/6/1)

第2回「コア運営を考える会」は5月10日午前12:00、コア裏の「センター」で行われました。今回話し合われたのは「公民館企画講座」についてです。

公民館企画講座って何だか知ってますか。そう、ときどきコアで行われている健康講座や歴史講座など、公民館が専門の講師を招いて開いているサークル活動ではない講座です。なかには小学生を対象にした料理やお菓子作りの講座もあるので知っている方もいるでしょうね。だいたいい年に20回程度開かれています①。

私たちが公民館の運営を住民で行いたいと申し入れて、千葉市と検討を重ねた結果、千葉市はこの公民館講座を住民が企画・運営してはどうかという提案をしてくれました②。具体的には、現在公民館の職員が行っている講座の企画・運営の仕事を、住民が職員さんに替わって公民館に常駐して行うことが求められています③。面倒そうな仕事ですが、この仕事を行う事で住民側は「業務委託料」(?)相当のお金を千葉市から受け取ることができ、それによって公民館の施設や備品の維持を自分たちの判断で行うことができます④。では、公民館講座の企画・運営とはどんなことをするのでしょう。例えば大学の先生などの専門家に連絡をして、文化講座を考えてもらい当日講師になってもらって報酬を支払うという業務です。でも講座は文化講座だけでなく、工作教室や子ども向けの料理教室も行われています。仮に住民がボランティアでこんな講座を自分たちが先生になって行えば、その報酬分の費用はコアを良くするために使えそうです⑤。

今回の考える会はこの点を会のメンバー4人が千葉市の教育委員会を訪れ、聞いてきた結果について話し合いました。結果から言えば上記のように住民がボランティアで様々な講座を行い、その費用を受け取るとは可能です。たとえばお話し会のサークルが開いている子ども向けのお話し会も公民館講座に指定することができます。また音楽サークルが一般向けに体験教室を行うことも講座になります。これなら年間20回程度の講座は比較的簡単に埋められそうです⑥。またこんな講座は住民が自分たちで行うので、住民のニーズに合った講座が企画できます。日頃行っているサークル活動の延長で得られたお金をコアを良くすることに使えばこんないい方法はありません。でも話はそれだけでは終わりません。仮に住民がこの業務を行うようになった場合、誰かが公民館に常駐してして仕事をするようになります。もちろんその費用は「給料」としてもらえるので住民がパートで働く雇用も生まれます⑦。しかしそうになると雇用契約など労働法規の問題があり、そのためには住民側がしっかりと組織を持ち、その組織でこれらの問題を解決することが必要です⑧。幸いベイトンには「ベイトン協議会」がNPO法人として発足しており⑨、千葉市もこの組織を窓口として交渉することを望んでいます。今回の考える会では、公民館講座を住民が企画・運営する際の問題点の協議を千葉市と行うことをベイトン協議会にお願いすることを確認しました。考える会は実務面については協議会にお願いし、自分たちは公民館講座にどのような講座を充てるか、また今後コアを維持しながらさらに使いやすくするにはどんなことができるかを話し合うことになります⑩。

① 千葉市の説明会資料によれば、H21 9回、H22 9回、H23 14回、H24 13回、H25 13回。

市は委託によって15~20回程度の講座開催を希望している。

② 住民から申し入れをした事実はない。市長マニフェストに基づき市の事業委託として提案があった。

③ 講座企画運営自体は完全な事業委託で講座企画運営のためだけに勤務を求められていない。講座以外の主事業務全般のためにフルタイムの勤務が求められている。初期提案では窓口担当非常勤職員を住民から出す事を求められていた。

④ 一般社団法人「まち育てサポート」が契約を行い勤務者等を雇用する。法人が最低賃金法などを満たす給与支払いを行った後に残るお金についてのみ講座企画に充てることができる。それ以外の用途は目的外の流用。

⑤ 講師を住民が無償で行い、講座運営費を「考える会」の財源に振り替える方法論。用途を監査するしくみが必要。

⑥ 市は、講座の数を増やして欲しいのではなく、地域に有益な内容のものを提供して欲しいとしている。(資料4) 既存の活動を公民館講座に指定するだけで、お金が他の用途に消えることを認めるとは考えがたい。

⑦ 松村氏は窓口業務を年100万円(時給400円)でやると言っていたこともあり、現在も給与として多くを出すつもりはないという。松村氏が何を言おうと雇用を行うのは協議会側で、最低賃金法を守ることを言明している。市の予算は最大300万円で、諸経費を考えると最低賃金程度(時給800円)になる可能性が高い。それにもかかわらず、勤務すれば館長不在時には最高責任者で賃金に見合わない責任と言える。人手不足の現在、勤務を

する人間を見つけることすら難しい。

⑧ 法人として法令遵守を行うことを明言している。しかし、市の提案自体が派遣法に抵触する「偽装請負」であるため、法人ではいかんともしがたい。

⑨ 「幕張ベイタウン協議会」は法人格をもたない任意団体。NPO 法人ではない。協議会が作った「まち育てサポート」は一般社団法人であり NPO 法人ではない。

⑩ あたかも提案を受けることが決定しており講座企画運営以外の全てを協議会が引き受けるが如く書かれているが、協議会が担当することを明言しているのは、「業務内容」「予算」の確認と見直し交渉、業務委託を受ける際「まち育てサポート」が契約者となることになることのみである。求人、雇用、人事管理、会計管理、派遣業務管理などの事務全てを引き受けることは正式には言及されていない。そもそも市と業務契約を結ぶことは約束されていない。

資料 4 生涯学習振興課の回答(2015/5/27)

日頃公民館で活動しているサークル団体等が、学習した成果などを、広く地域のみなさまに発表・還元することは「相互の学び合い」のひとつのあり方であり、「講座」となりうるとご説明させていただきました。

講座の枠組みは色々ありますが、公民館の主催事業として、広く地域の課題解決につながること、地域で共有すべき有益なことを提供していただきたいと考えています。

なお、運営に参画いただく目的は、公民館の利用方法等も含め、地域の総合交流拠点としての改善につなげることであり、単に主催事業の「数」を増やしていただきたいわけではないことも補足させていただきました。

コアを維持するために何ができるか (2015/9/1)

備品や設備が壊れ、このままでは10年もせずに今のレベルの活動ができなくなるといわれるバイタウン・コア①。住民で何かできることはないでしょうか。

現在コアを使っているサークルのみなさんがこの問題について考えました。

8月16日、コア講習室で打瀬公民館を拠点に活動するサークル代表者のみなさんがコアの運営について話し合いをしました。これはこの日に今年のコア・フェスタ実行委員会が開かれ、サークルの代表の方が集まる機会があったので、その場を借りて②今後のコアのあり方について意見をいただくという形で行われました。

コアの運営をどうするかという問題はバイタウン住民全体の問題ですが、現在もっとも関心があり影響を受けるのは、今コアで活動しているサークルです。普段使っていてどんな不具合があるか、運営上どうすればもっと使いやすくなるかなど具体的な希望や意見を出し合い、サークル間で話し合いたいという主旨でした。

話し合いでは多くのサークルの方が今後のコア、特にホールの維持について不安を持っており③住民間でこの問題について話し合い協力したいという提案には大きな共感がありました。当面は11月のコアフェスタの準備作業を協力して行い、その過程ですこしずつ話し合いを進めることで合意しました。住民サイドでのコアの運営への住民参画については大きく進展したという印象です。

一方考える会の8月の会議では千葉市との協議の遅れが問題になりました。当初千葉市と合意していた予定では来年度(平成28年度)からでも準備ができれば公民館講座や設備の住民管理を行うことになっており、9月には住民参画を受けるかどうかの判断を千葉市に伝えることになっていました。

しかし、協議会と千葉市との話し合いは進展せず9月のこちらの意思表示も難しくなっています。

これは現在千葉市が検討している公民館の指定管理者制度への移行問題が進んでいないため、そのために公民館の民営化④という点に関連のある打瀬公民館をどうするかという問題に結論が出せない状況にあると思われます。

住民側としては来年度からの参画に向けて準備し、前述のようにサークル間でも積極的に関わろうとするなど、その準備も順調に進んでいたのですが⑤、これでは来年度の状況も不透明になります。

そこで、この問題について千葉市側の説明をいただくため9月の会議では担当部署の方に出席をいただき、状況の説明と今後の予定を話し合うことにしました。日時：9月6日(日)午前11:00より場所：センター(旧打瀬子どもルーム)で開催します。当日は午前10:00より前述のコアフェスタ実行委員会が同じ場所で開かれるので、サークルの代表者の方々はそのまま残って千葉市の説明を聞く機会が持てます。

もちろん一般の方の参加も可能です。この問題に関心のあるたくさんの方の出席をお待ちします。

- ① これは呼びかけ人が勝手に煽っているだけで、マッチポンプ状態。市側はこれまでの経緯を反省し、維持管理を約束している。市の施設である以上当然のことである。
- ② 後述するように「考える会」にはサークル代表ら含め20名程度の参加があったにも関わらず、まもなくほとんど参加者がいなくなった。「考える会」呼びかけ人が「10年持たない」と煽ったにもかかわらず、実体が維持管理問題とはまるで違うものであったためにほとんどが離れた。しかし、呼びかけ人はコア・フェスタの世話人も兼ねているため、サークルを否応なく巻き込む手段を持っている。呼びかけ人がコアについて大きな影響力を持っていると勘違いしているサークル側は、コアの利用が不利になっては困るという不安心理を持っており、呼びかけ人はそれを利用している。自治会連合会副会長であり協議会の副会長である伊藤氏を抱き込んでいる呼びかけ人は、実体としてコアのボスとして君臨している。実のところはなんの権力も持たないが、都合の悪い人物をつるし上げた上、関係していた自身の関与するサークル等から排斥するなど、まさにボスらしさを発揮している。
- ③ 現実には起きている問題のほとんどは、利用者が設備を破損させたり、利用者が機器のセッティングを勝手に変えたりと言った利用サイドの問題で、利用者の問題であると同時に、それを指導監督できていない公民館側の体制の問題でもある。これは維持管理運用の責任者を配置しない限り本質的に解決しないが、利用者が使い方を注意することで多少は改善

可能な部分はある。それとは別に、設備、機器類の経年劣化や設備の安全点検が行われていない問題があるがこれは純粹に予算と管理の問題で、両者は関係こそあるが分けて考える必要がある。

- ④ 指定管理者制度は一般に民営化でコストダウンと民間の運営ノウハウの導入を期待する者であるが、公民館では千葉市教育振興財団の随意契約となるのが前提になっている。真の民営化ではない。
- ⑤ **この会議(8/2)の参加者は6名。**うち内容には直接関わらない協議会のメンバーが4名。**実質呼びかけ人+1名だけで協議**していたことになる。参画の準備と言っても「考える会」は市との交渉や勤務者確保、人事・会計労務管理等の実務を「協議会」に丸投げし、「協議会」は市が違法性のある提案を修正したものを出してこず、予算も分からないからと一切準備を進めていない。要するにH28年度から事業を始めると言いながら、市の回答がないことをいいことに具体的なことは一切行っていないのである。あり得ないことに勤務者の打診や予算の概算、必要な体制のイメージづくりすら行っていない。市の案が公表される以前か

ら予算概算が提示されても人件費の試算など具体的なことは一切検討しようとせず、事業に必要とされる予算見積もりもしていない（少なくとも議場に提示したことはない）。とても本気で事業を行おうとしている団体のやり方とは思えない。

準備と言えるものと言えば、非公開の議事録を見る限り、

上記のように千葉市が次回の会議に参加するので、それまでに来年度上半期分の公民館講座を具体化した企画書を準備し、こちらの準備が整っていることを示すことが必要です。
コマ数としては6ヶ月分、12コマが必要です。すでに前回会議で案として出ている「ベイタウンの景観シンポジウム」（景観に限らずこれまで街作り系で行ってきたフォーラムなどを行います。初回は6月に行ったベイタウン年表をテーマに行う予定です）
「ラジオ体操」（鎌田さん提案。ラジオ体操の実技や文化など大人でも楽しめるもの）の2つの講座に加え、
「コア・ホールでのステージ照明基礎講座」を企画しています。この講座はコア・ホールの照明器具の扱い方法を各サークルが自分たちでできるようにするためにも役立ちます。
この他に2講座ほどを加えれば予定のコマ数は埋められます。今後はこれらの講座の企画書をつくるのが作業として出てきます。（8/2 考える会 議事録）

という、呼びかけ人自身が提案している公民館講座案だけである。

コアを維持するために何が出来るか (2015/10/1)

「考える会」、9月のミーティングでは遅れ気味の千葉市との協議について、市の担当者にも参加してもらい今後の予定を確認しました。これまでの話し合いで決まっていたのは、今回の住民参画を来年度(平成28年度)より進められるよう準備すること。そしてその内容は：1)公民館講座を住民で企画・運営とする2)そのための管理をする事務担当者を住民側で雇用し、受付業務など一般事務も行う3)雇用のための調整を千葉市とベイトウン協議会がおこなう4)ホール等の設備、備品の管理に住民が参加するということでしたが、このうち2)と3)の部分、つまり雇用の部分について調整がつかず話し合いが止まっていました。

今回の千葉市からの説明では、遅れている理由は「雇用を伴う部分で制度設計をするのに時間がかかっている。①さらに千葉市全体で考えている公民館の指定管理者制度への移行についての検討が進まず、その対応に時間が取られている」との説明でした。

もともと打瀬公民館での取り組みは住民側からすれば指定管理者制度とは別の話②ですが、同じ部署で扱う問題なので全く無関係には進められないということのようです。

これを受けて、今後の予定を同じ会議の場で話し合い、次のように予定を変更しました。1)公民館講座を来年度から住民が運営できるよう検討する2)ホール等の設備、備品の管理に住民が参加するつまり調整のつかなかった「雇用」の部分の少し先延ばし、実際にできる部分から始めようという話です。

どうでしょうか。こう書くと公民館を住民が管理するという壮大な話が、いつの間にか公民館講座の一部を住民が企画するというすいぶん小さな話に矮小化されたような印象を持つ方も多いと思います。「こんな話は出来るはずがない」と思っていた人からは「そら見たことか」という声が聞こえてきそうです。③しかし、そう悲観的な話でもありません。もともとこの話はコアの運営の自治権を拡大し、最終的には住民管理の文化施設にしたいということが目標です。そのためにできることから始めようというのが今回の活動のはじまりでした。魅力ある公民館講座を自分たちで企画し、運営を続けていくことは、コアを自分たちの文化施設として住民が認識し、その設備や備品の管理に自分たちが関わり、住民が出し合った資金で従来の公民館予算では管理できなかった部分を補填することにつながります。そのための活動については千葉市も住民が主導的に活動することをお互いに認めるところまでは今回到達できたと思います。

今回の千葉市との折衝をきっかけにして「コアがこのままでは老朽化し、今までやってきたこともできなくなる」という危機感を実際にコアを使っている人達の間では共有でき、そのために何かしなければという気運がサークル代表者間で出してきました。④また住民がこういう意識をもって活動することを千葉市も評価していることが話し合いの中で確認できました。外見的には大きな変化はなかったかも知れませんが、公民館の運営に関する意識は大きく変わったと思います。

① 相変わらず重要なことを説明しない。雇用部分においては、千葉市の案は住民団体から住民の派遣を求めるものであったが、住民団体は派遣業の認可をされており、認可を得るには審査と大きなお金がかかり全く考えられない。そのため派遣を行えば偽装請負となり**労働者派遣法違反**となる。また派遣を受けた千葉市は**職業安定法違反**となる。更に千葉市が提示する予算で必要な人員を雇用すると最低賃金に満たないため、**最低賃金法違反**となる。これらが指摘され、千葉市は千葉労働局と協議し、「館長と同等」とすることでの**脱法を検討**したと伝わっている。もちろん現実には一人管理職のような**完全な違法行為**であり、千葉市の案を根本的に見直さない限り違法性を修正できない。このため、住民参画自体が流れたらしい。そもそも課のこれまでの取り組みや違法性を含む案の出来を見る限り、当初から大きくスケールダウンした上、曖昧なものばかりで深い検討がなされた様子がなく、市長の押しつけの「公民館住民管理」にやる気があったと考えるのは難しい。案を公表する前に法務担当のチェックを受けないと驚くばかりだ。 **資料:市の案の問題点**

② もともと公民館全体の指定管理者制度での公民館管理を住民団体で受けるかどうかと言う話が持ちこまれ、それが1名勤務にまでスケールダウンしている。記事の執筆者は当初からこの件で市と協議しているし、過去にベイトウンニュースでも本人が記事を書いている([Vol.192](#).....当時は公民館有料化をネタにこの制度の導入機運を高めようとしていた)。なお、公民館の管理をH28年度から千葉市教育振興財団に移管するという話が存在したが、H26年度にやらない方向で検討していた。最終的な結論は不明だが、H28年3月時点で公民館自身が何も聞いておらず現場研修も行われていないので、流れた可能性が高い。

③ 千葉市の案は検討段階から最低賃金にも満たず、ボランティアを多数管理し運営し続けなければならない非現実なものだという指摘を受けていた。それに

もかかわらず「考える会」は、ボランティアの確保の可能性、人事管理や金銭管理を含めた運営体制の検討、予算の検討など一切なしにH28年度からの住民参画を決めていた。当初から不可能だから現実的な案として講座の運営のみにしぼって交渉すべきだと言われ続けてきたものを無視して来たため、指摘通りになったことに対してこのような記述をしていると思われる。

④ 千葉市長のコアに対する予算の柔軟な運用の約束、千葉市所轄課の維持管理の約束をなかったことにし、「あ

と10年持たない」と煽られての当初の参加者は20名。議事録がある最終の10/4の参加者はわずか4名。このうち実際には協議には参加しない「ベイトウン協議会」のメンバー2人を除けば実質呼びかけ人+1名のみであった。すくなくとも「考える会」のやり方はサークル関係者には全く支持を得られず、ごく一部のものだけで検討を行って来た。ベイトウンニュースという地域メディアを使って事実と異なる内容を含めた広報を行い、実体と異なる印象を与えようとしてきたことが分かるだろう。この事実を踏まえて記事の記述を読むと、如何に空々しいかが感じられる。